

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

同時多発テロ、「報復戦争」

被爆者として思う

九月一日のアメリカでの同時多発テロから一月余りが過ぎた。この間に世界と日本が、想像もできなかった政治的変動を起こしている。この変動に被爆者の一人として暗澹としている。

二一世紀の早い時期に、核兵器も戦争もない世紀の土台を作りたいとの被爆者の願いと決意を、日本被爆協は「二一世紀「被爆者宣言」」に込めた。その実践として、核兵器廃絶への明確な約束の実行を求め、核保有国への要請団の第一陣を、一〇月の初めにアメリカに派遣する準備を進めて来た。この計画も、それに続く、他の保有国への派遣計画も同時多発テロで頓挫してしまった。

大量・無差別のテロによって命を奪われた五千人を越す国際的な広がりを持つ市民の死を悼み、家族の悲しみと、怒りに、心からの同情を寄せ、このような残酷、非道なテロ行為に怒りを持つと同時に、再びこのようなテロ行為が生じないために、何ができるのか追求していきたい。

しかし、大国の尊厳を傷つけられた怒りから、ブッシュ大統領が声高に、世界に呼びかける報復「戦争」には反対

田中 熙 巳

だ。報復は報復の連鎖を生むし、「戦争」の犠牲になるのはほとんどが罪なき市民、子どもと女性である。

「炭そ菌」による「報復」に対する「報復」が始まっているのだろうか。崩れ行く世界貿易センタービルをテレビの画面で見ている、原爆で、瞬時に、この次第も分からないまま、命を奪われた一〇万余の仲間のことを思った。原爆は生き長らえた数十万の被爆者をも放射線の後遺で苦しめ続けている。たとえ戦時とは言え、原爆投下は大量無差別殺傷の残虐行為ではなかったか。

被爆者はこの惨虐行為に「報復」を選ぶのではなく、アメリカ政府に謝罪を求め、その証しとしての、核兵器廃絶を求めてきた。

アメリカ政府は原爆投下は正当だったと一貫して主張してきた。そしていま、自国に加えられた、大量無差別殺傷のテロに対しては、報復「戦争」を宣言し、協力を世界に呼びかけ、犯人グループを想定し、犯人をかくまっていたとして、アフガニスタンに攻撃を始め、タリバン政権の転覆を図っている。

る。武力攻撃は早くも、国連職員を含む市民の犠牲者を生み出している。旧ソ連やアメリカの大国の都合に翻弄され、内乱が続く、疲労し貧困に喘ぐアフガニスタンへの武力攻撃は新たな難民を生み、まもなく訪れる冬を無事に過ごすことさえ危ぶまれている。

ブッシュ大統領の呼びかけを受けた小泉内閣は、自衛隊の海外派遣に道を開こうとしている。武力行使には参加しない、戦争はしないとの詭弁を弄しながら、「テロ対策特別措置法」を短時日のうちに衆院を通過させた。無茶苦茶なやり方で、憲法を蹂躪しようとしている。

国際紛争の解決手段としての武力の行使を放棄し、戦力を放棄した、日本国憲法を持つ日本の国際的貢献は、軍事協力であってはならない。日本の平和主義意法は、悲惨な原爆体験から国民が選択したものでなかったのか。

いかなる理由でも「テロ」を許してはならない。しかし、世界には、さまざまな「テロ」行為が頻発している。「テロ」の背景にある、文化・文明の衝突、貧困、差別を解決することなしにテロを根絶することはできないだろう。この解決に平和的に貢献することにこそ日本にふさわしい役割がある。
(日本原水爆被害者団体協議会事務局 長)

カプセルは、マーシャル諸島のビキニ環礁や南の島々に実る椰子の実は形からデザインし、高さ七五センチ、幅六〇センチの薄茶色をしています。製作は陶芸家の小坂一韶さんが、備前の土を用い「広島原爆の火」を火入れして登窯で焼き上げたものです。

将来、マグロ塚が築地市場に設置されるまでの間、カプセルは福竜丸展示館で預かりますが、今後、公開展示の可能性についても検討することになっています。

ボランティアの会が焼津へ研修旅行

第五福竜丸ボランティアの会は、十月十五日、十六日の二日間、焼津への研修旅行をおこないました。

一行一三名は秋晴れにめぐまれた一日午前一時すぎ焼津に着、出迎えの飯塚利弘さん、成瀬実さんの案内で、焼津港へ向かいました。

まず漁業資料館を見学、焼津の魚市場、漁協の下で福竜丸の係留されていた当時の話しや戦争中の徴用船についての報告を受けまし

た。焼津の魚で昼食の後は、久保山愛吉さんが生まれ育った浜当目を訪ねました。愛吉さん、すずさんのお墓と弘徳院の久保山愛吉の墓に花を捧げ、焼津の漁業や愛吉さんの少年時代の話、また原水爆禁止運動の歴史についての報告を受けました。

船舶保存の専門家が見学

十月二三日朝、東京文化財研究所による「船舶の保存・修復について」のセミナーに参加した内外の研究者など八名が第五福竜丸の船内の状況について見学しました。

来館したのは、デンマークのト

ム・ラスムセン(船舶保存アドバイザー)、デョルテ・ミュンスターマン(船舶保存専門家)、イゴ・ハイドリック(ドイツ船舶博物館)、アンダース・バード(欧州海事遺産会議議長)などの専門家の方々。一行は、福竜丸の補修をてがけられた文化財研究所修復材料研究室長の川野辺涉博士の案内で、熱心に船体の木造や補修についての説明を受けていました。

協会役員、焼津市長などを訪問

十月十五日、十六日におこなわれた第五福竜丸ボランティアの会による焼津研修旅行には、平和協会から川崎会長、藤田副会長はじめ役員が参加しました。

一六日午前中には、協会役員職が焼津市長を表敬訪問。戸本市長は公務のために会えませんでした。平和協会にたいする丁寧なメッセージをいただき、秘書課長と懇談しました。

つづいて焼津市歴史民族館を訪ね、吉永律子館長と山口和夫学芸員と懇談しました。懇談では、同

資料館が所蔵する久保山愛吉さんと家族との往復書簡の借受けなどについて話し合い、福竜丸関係の所蔵資料目録の提供をうけることを要請しました。

来館記念スタンプとキーホルダーができました



長崎県上五島の太田慎五さんが来館の折に詠まれた和歌

其の辰よ
長崎の島に
福竜丸
夢の島に
浮く

鹿児島でのビキニ事件

桑 畑 法 文

八月二十四日から二十六日、鹿児島市で「第六回鹿児島・平和のための戦争展」(同名実行委員会・主催)を開催しました。一九九四年から始めた「戦争展」では、アジア・太平洋戦争当時の物品、侵略戦争の実態と戦争責任、鹿児島県の空爆被害、沖縄を中心とした米軍基地、戦争に反対した人々、原爆・核兵器に関すること、特攻基地をはじめとする戦跡、教科書問題など、幅広いテーマの展示を行ってきました。また、「語り部」として、多くの方々に体験談や平和を脅かす様々な問題についてお話をいただきました。

そして今回は、核兵器被ばく問題に関して「ビキニ水爆実験と鹿児島県」というテーマを取り上げました。第五福竜丸展示館から展示パネルをお借りして、一九五四年(昭和二十九)当時の南日本新聞のビキニ事件に関連する記事などとともに展示しました。

ビキニ水爆実験では鹿児島県も

被害を受けました。第五福竜丸事件が伝えられた翌日には、鹿児島市内にある魚屋の店先はひっそりとなり、「水爆マグロではありません」といった張り紙が出されました。鹿児島県内で放射能魚を廃棄した漁船は、鹿児島港、串木野港を中心に、延べ二〇〇隻を超えています。五月二日に、鹿児島港に水揚げされた魚から放射能が検出されたのが始まりでした。

串木野港では、五月二十七日から、マグロ延縄漁船のほとんどが被害を受けました。マグロの一部を地下に埋めたという報道もあります。また五月下旬から六月にかけて、魚の価格が暴落し、大きな打撃を受けました。放射能雨も九月下旬から降り始め、健康についての不安や、農作物への風評被害などが県内に広がりました。このことで、鹿児島県でも、核実験禁止を求める世論が高まりました。

参観者にアンケートをお願いしました。六〇代以上の方は、第五

福竜丸事件について、鹿児島県内で魚の被害にあったことや、放射能雨が降ったこともご存知でした。

中学生からは、「写真を見てびっくりした。戦争に関係のない人が、灰をかぶっただけで病気になったのはかわいそう」という感想が寄せられました。三〇代の女性は、「放射能雨のことは知らなかった。チェルノブイリの時は、川内原発の近くに住んでいたので、気にしていたが」と驚いておられました。ほとんどの方が、核実験禁止、核兵器の廃絶を願うご意見でした。

「戦争展」の展示に取り組む過程で、基幹産業の一つである漁業に与えた被害、環境への影響など、ビキニ核実験が鹿児島県にとって重大な出来事だったことがわかりました。今後も機会があるごとに、多くの県民の方々に知らせていきたいと思っています。

(鹿児島県・平和のための戦争展実行委員会)

軍艦うごく被曝六気筒の秋眉 望月 よし江

エンジンはいまゴミの中からよみがえった第五福竜丸とともに、日本の首都東京から、全世界にむけて平和のメッセージを送りつつづけている。

第五福竜丸に会ったことのないあなた、ぜひ会いに行ってください。ほろほると錆いろの涙を流しつつづけるエンジンをみてほしい。船とエンジンは必ずあなたの瞳に語りかけてくるはずだ。遠くビキニ環礁で被爆した時から今日までの長い長い物語を。そして、青く美しい地球をあなたに守ってもらいたい。その日からあなたは、あなただけの「平和記念日」を瞳に宿すことになるだろう。

(新俳句人連盟副会長、久保山忌俳句大会担当)



和歌山・海南の高校生 福竜丸のCD-ROM M製作

「第五福竜丸―数奇な運命をたどったビキニの生き証人」と題する映像CD-ROMが和歌山県立海南高校の映画研究会によりこのほど製作されました。

これは、福竜丸のエンジン引揚げの発案者、海南市在住の杉末廣さんが同研究会に製作を依頼し、共同で企画・編集したものです。

映像は、福竜丸の被ばく当時の焼津の映像から、五年前の三重県御浜沖でのエンジン引揚げの様々をおさめたニュースフィルムや東京・夢の島の福竜丸展示館への展示までの様子が二〇分にまとめられ、ナレーションで福竜丸とエンジンの運命が語られています。

錆いろの涙

それはほろほると崩れていた。触れもしないのに崩れているのは、黒く錆びたエンジンの肌。

第五福竜丸のエンジンが三重県・御浜町沖合の海底から二八年ぶりに引き上げられた姿を、私は三浦三崎の屋外展示ではじめて見た。エンジンは絶え間なく剥落しながら、真夏の陽を浴びていた。久保山愛吉さんが亡くなって四七年目の九月二三日、私は濃りんどうの大花束をかかえて夢の島に来了。久保山忌句会のためである。年に一度しか開かれないうさやかな句会だが、二一回を数える。

この句会に先だつ九月一日、アメリカの同時多発テロ事件が起った。テレビに映った魔天桜の崩落のさまは、映画の一シーンのようであった。この日から一日中「戦争」が茶の間に居座わった。アメリカはテロに対する報復戦争

を世界中に呼びかけ、すでに血を血で洗う爆撃がはじまっている。

田中千恵子

報復の Rond 背高泡立草 沖 正子
子を埋める砂の国境月高し 石川 貞夫

そんな中で開かれた久保山忌句会の参加者たちは、第五福竜丸とエンジンと「マグロ塚」に会い、久保山愛吉さんの遺言の碑に一輪ずつのりんどうを供え、平和への思いを新たにしました。

ビキニ環礁で被爆し、売られ、航行中海底深くに沈んで眠りつつづけたエンジンは、ここ夢の島の展示場でもまたほろほると崩れている。その剥落のさまは、錆いろの涙のように見える。身を削って平和を訴えるこの姿こそが、真の平和への道ではないかと思わされる。



マグロ塚のタイムカプセルが完成

第五福竜丸展示館の横に仮設置されたマグロ塚の下に埋設するタイムカプセルがこの程完成し、九月二三日の久保山忌に展示・披露されました。

これは、第五福竜丸元乗組員の大石又七さんとマグロ塚を作る会が制作したもので、本来は東京・築地市場に塚を設置し、その下に埋めようというものです。この中には、マグロ塚の運動に寄せられた募金者二万人の署名とビキニ事件を伝える平和のメッセージなどを入れ、一〇〇年後、二〇〇年後の人々に受け継いでいきたいとの願いが込められています。

(記事4めんにつづく)



マグロ塚とタイムカプセル